

平成29年度 全国学力・学習状況調査概要

七次台中学校

本年4月18日、文部科学省により、全国の小学6年生、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、学校における教育活動の成果や課題を見つめ直し、よりよい教育活動に活かすことを目的としています。調査内容は、教科に関する調査として国語と数学、その他、生活習慣や学習環境についての調査がありました。国語と数学の2教科については主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。3年生には既に個人票を返却してあります。今後の学習にお役立てください。なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解いただくとともに、今後ともご協力をお願いいたします。

国語の考察

国語A（主として知識）に関する問題は全国平均と同程度、国語B（主として活用）に関する問題は全国平均をやや上回る結果でした。全国的にいえる課題ですが、「事象や行為などを表す多様な語句について理解すること」「伝えたい事実や事柄について、根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味する」等に課題がありました。本校生徒も相手に分かりやすい説明をする際に、どのように工夫したら良いか、根拠を踏まえて考えることが苦手な面があります。常にどうしてこう考えたか、根拠を挙げて考える姿勢を身につけさせるように国語の授業はもちろん他教科でも自分の考えや意見を述べる際に理由や根拠を挙げて述べられるように取り組んでいきます。また、事象や行為が詳しく伝わるように多様な語句、適切な語句を用いて書くために、レポートや意見文の作成も同様に、全教科で取り組んでいきます。

数学の考察

数学A（主として知識）、数学B（主として活用）に関する問題共に、正当率が全国平均とほぼ同等の成績でした。本校の生徒は授業態度が良く、授業の約束を守って授業に取り組んでいる生徒がほとんどです。本校ではどの教科でも授業の中で生徒間で話し合う活動をよくとっていたり、自分の考えを発表したりする機会を多くとっています。しかしながら、まだ、解答を待つ生徒が少なくないと感じる場面もあります。ノートに自分の考えをしっかりと残しておく学習が今後さらに必要だと感じます。学校としても学級や教科の授業で自分の考えをノートに書く習慣をつけさせていきます。学ぶ意欲もあり、知識がさらに身につけば、活用する力もさらについていこうと考えられます。家庭学習を行う際にも、ぜひ自分のノートを活用することで、自分の考えを振り返り、「理解する」ことを目標に心がけさせたいです。ご家庭でもご協力お願い致します。

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について、質問紙による調査も実施しました。そのうちの一部ですが、全国平均と顕著な差があった本校の特色について、その結果をお知らせいたします。

規則正しく、前向きな生徒

毎日、同じくらいの時刻に起きている生徒の割合が9割を超え、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均を10ポイント上回っています。本校生徒の規則正しい生活がうかがえます。

将来の夢や目標を持っている生徒、自分にはよいところがあると思いている生徒の割合は、どちらも約76%であり、全国平均を5ポイント上回っています。本校生徒は比較的、自己肯定感が高く、将来に対しても前向きな姿勢であることがうかがえます。

家の人、先生との良好な関係

「家の人(兄弟姉妹を除く)が学校の行事に来る」という生徒の割合は約91%であり、「よく来る」と回答した生徒の割合は全国平均を8.5ポイント上回っています。また、「先生がよいところを認めてくれる」という生徒の割合は約86%であり、「当てはまる」と回答した生徒の割合は全国平均を6.5ポイント上回っています。本校生徒の家の人、先生との良好な関係がうかがえます。

課題はコミュニケーション力

一方、自分の考えや意見を発表することが得意な生徒の割合は43%であり、全国平均の51%を大きく下回っています。

このことは本校の課題の一つであり、国語、数学ともに同様の傾向がありました。本校では、今年度より学習形態にT字班を導入し、「学び合い」を大切にしています。今後も授業での言語活動を活発化させ、本校生徒の学力向上を目指していきます。

